



〒915-0823
福井県越前市本町 10-2
親縁山普照院

大寶寺

TEL/FAX (0778) 22-1682
http://www.daihoji.com
e-mail: info31@daihoji.com



永代経法要 6 / 18

5月の連休には行楽地に大勢の人が出かけて、コロナが広がらないかと心配されました。幸い大きな感染拡大はなく、5月8日にはコロナがインフルエンザと同様に5類感染症とされ、今の所、コロナ禍は落ち着いています。さて、恒例の永代経法要を左記のよう努めます。

令和五年 永代経法要

○六月十八日(日)

午前九時～十時二十分 施餓鬼

午前十時二十分～四十分 休憩

午前十時四十分～十二時 施餓鬼

午後十二時 休憩

午後一時～一時四十分 施餓鬼

午後二時より

伊勢大神楽奉納舞

永代経法要とは

すべての命はつながっています。この世、すなわち此岸の「生きとし、生けるもの」だけでなく彼岸、すなわちあの世の仏様やご先祖様ともつながっています。この法要では貴家のご先祖はいうにおよばず此岸・彼岸の有縁・無縁のすべての命を、永久に回向するというお気持ち大切です。お寺にお参りされましたら、ご本尊の前、また、施餓鬼棚の香炉でお焼香をして、三界万霊のご供養をしてください。

各家のご先祖の法名を読み上げる時間をA6判の別紙(佛餉袋に添付のことあり)にてお知らせしています。大勢の法名をお読みしますので、時間がずれることもございますが、ご容赦願います。



【参拝に際して】

法要終了後、伊勢大神楽の舞を奉納していただきますので、お誘い合わせでご参拝下さい。

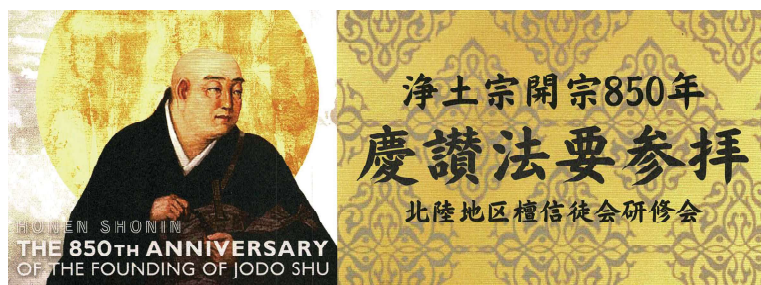
○お差し出しは、本堂に置いてある封筒をご利用の上、帳場にお出し下さい。

○マスク着用は自由といたします。

○都合によりお斎(昼食)の提供は致しませんのでご了承下さい。

○座敷に休憩所を準備しますので、お気軽にご利用下さい。

○本堂、またその周辺は禁煙とします。喫煙は座敷玄関の入口とところに喫煙スペースを設置しますので、そちらでお願いします。



浄土宗開宗850年
慶讃法要参拝

北陸地区檀信徒会研修会

浄土宗開宗850年を記念して
総本山知恩院で開催される慶讃法要に参拝します



導師 福井教区 教区長
大寶寺 吉田悦應上人

日時: 令和6年4月12日(金)
参加費: 15,000円(檀信徒会)
宿泊先: 湯の花温泉 溪山閣
日程詳細は裏面



申込先
中込締
問合せ
主催

法然上人が浄土宗を開かれて850年目にあたる令和6年4月、総本山知恩院にて慶讃法要が勤められます。4月12日には当山住職が導師を勤めます。団体参拝の企画がされています。後日、案内をお届けしますので、ご予定下さい。

当山で10年に一度、開かれる五重相伝を再来年の十月に予定しています。五重相伝につかされると、生前に戒名が授与されます。戒名に光譽、紫譽などのように譽号が含まれているご先祖は五重につかれた方です。詳細は今後、お知らせします。

五重相伝開筵

二橋信玄上人

令和七年十月九日～十三日
勸誡師 総本山知恩院布教師



「おてらおやつクラブ」で、お供えいただいたお菓子は、子どもたちの交流の場ともなっている越前市内の野尻医院が運営している「こども食堂」に提供されます。皆さまのご協力をお願いします。

【お供えものの例】

饅頭、煎餅、スナック菓子、チョコレート類、ゼリー、水ようかん、バレンタインチョコ、雛あられ、ハロウィンやクリスマスのお菓子。

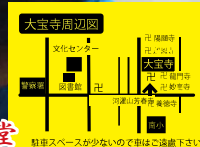
お米、インスタント食品、レトルト食品、味噌汁、海苔、醤油、砂糖、塩、ふりかけ、インスタント麺、ホットケーキミックス、ポップコーン、お茶、缶ジュースなど。

国指定重要文化財 伊勢大神楽奉納舞



日時: 令和5年6月18日(日)14時より

場所: 越前市本町大寶寺境内 雨天時は本堂



濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

いまさら おんがえ 今更の恩返し

二月下旬のことです。母が椅子から落ちて、自力では起き上がれないでいるのを妻が見つけました。痛がるので念のためかかりつけの医師に診察してもらったところ骨に異常はないとのこと。ただ、入浴が困難になり介護支援を受けるためケアマネージャーに相談し、週二回のデイサービスを受けることになりました。やれやれと一息ついたのですが、サッパリして元気になるかと思われた入浴のあと母はグッタリするのです。また、母の体力は日を追うごとに衰えました。そこで拠点病院の診察を受けたところ、脳梗塞が起きていることが分かり、入院して治療を受けることになりました。

コロナで面会がほとんどできないまま、一ヶ月半ほどで四月の中旬に退院することができました。ただ、市役所から届いたのは要介護5の認定。自力での日常生活が困難になりました。

左手は使えるので、時間はかかりますが自分で食事が取れることは不幸中の幸いです。最初のうちは食事以外は寝てばかりで呆れるほどでしたが、一ヶ月あまりたった現在では、大好きな大河ドラマを見たり、ベッドを起こして、左手だけで新聞や本をめくって読書をしたりできるほどに回復しました。

家族の協力や公的支援を得て何とか自宅で、療養を続けたいと思っています。皆様には、なにかと迷惑をかけるかと思いますが、ご理解とご協力をお願い致します。

ところで住職は六時半頃に本堂でお勤めをします。正直に白状すると、お経やお念仏を称えながらさまざまな雑念がわきます。

「介護で腰を痛めたらどうしよう。留守番がいなくなると気分転換のドライブやウォーキングもできない。庭仕事や買い物にも制約が出るなあ。」などと、お勤めをしながら、さまざまな懸念や不安が頭をよぎります。

この時、あることに気づきました。母は私が幼い頃、自分の都合をさておいても、私を育ててくれたに違いないと。若かった母もきつと自分のやりたいことがあったはず。子育てのために諦めたことがあったかも知れません。だったら、「おあいこ」。今、自分はそのお返しをしているだけ。そう思ったとたん気分が楽になりました。

そんなことを考えながら、ふと須弥壇の方に目をやると、阿弥陀様が私に向かってにつこりと微笑んでいました。背中の方から差し込む障子越しの明かりのせいでそう見えただけなのかも知れません。でも、お勤めをしていると折に触れて、さまざまなことに気づかせていただけます。本当にありがたいことです。